廣中　清介
無派不撓クラブ

プラスチックに係る資源循環の促進について、本市の考えは

資源循環型社会の実現に向け重要な施策と認識し、
新たな分別収集を検討している

動画へGO

プラスチックに係る資源循環の促進について

問　もやせるごみ・こわすごみとしていた製品プラスチックの再商品化を目指す「プラスチックに係る資源循環の促進」について、本市の考えは。

答　資源循環型社会の実現に向け重要な施策と認識しており、新たに分別収集を実施していく方向で検討を進めている。

問　製品プラスチックを分別収集することで、新たに発生または増加する経費は。

答　収集費用や、再商品化を行う事業者に引き渡すための圧縮保管費用等が増加すると想定している。

問　製品プラスチックについて、どのような分別方法を想定しているか。

答　従来の容器包装と製品プラスチックを一括して、「プラスチック類」として分別収集するよう想定している。

問　分別収集の開始を令和7年度とする理由は。

答　分別方法、収集頻度などの整理期間および市民への周知期間を踏まえたもの。また、令和7年度には豊橋市とのごみ処理広域化により生ごみなども分別方法が変わる予定のため、令和6年度に地区自治会単位での説明会と合わせて開催することで、市民の混乱や負担を軽減できると考えている。

問　プラスチックごみ自体を減らしていく取り組みも必要と考えるが、市の取り組みや展望は。

答　マイバッグ・マイボトルなどの利用啓発、「きらり☆宝市」などリユースイベントの開催、レジ袋の代用品としての市指定ごみ袋の販売など、プラスチックの削減を図る取り組みを実施している。今後も、市民や事業者と一緒になって、引き続き資源循環型社会の実現に努めていきたい。

認知症施策の推進について

問　認知症の本人や、介護者への支援の取り組みは。

答　できるだけ早期から支援を行うため、認知症初期集中支援チームを設置するなど、本人や家族の視点を重視して包括的に取り組んでいる。本人への支援は、閉じこもり予防教室など通いの場づくりを推進し、介護者への支援は、家族介護者交流会の開催や、東三河広域連合による家族介護リフレッシュ事業を実施している。

問　認知症になっても暮らしやすい地域づくりへの取り組みは。

答　地域などで認知症理解の普及啓発を図るため、認知症サポーター養成講座などの開催や、認知症ケアパスを作成している。徘徊が心配される高齢者に登録をお願いし、警察や消防などに情報提供して、行方不明時の捜査協力と平常時の見守りにつなげている。さらに、衣服に貼ったQRコードをスマートフォンなどで読み取ると家族等へメールが届く、認知症見守りQRラベルシート事業を今年度から開始した。

※　このQRコードを読み取ると発見した時の手順を確認できます。